

北 東 ア ジ ア 文 化 通 信

ホームページ版 第 2 号

編集発行：鳥取看護大学・鳥取短期大学 北東アジア文化総合研究所

韓国の歴史と現在に触れた旅 平成 28 年 11 月 11 日（金）～13 日（日）…………… 1～3
鳥取短期大学 大学間教育連携推進室 森本 愛

羅州市へ出発

今回の旅は、1993 年から行われている倉吉市と韓国全羅南道羅州市との姉妹都市交流の一環として開催され、30 名程度の参加があった。2 泊 3 日の旅初日は、岡山空港から 1 時間半で韓国仁川空港に到着し、目的地である羅州市へ向かう新幹線（KTX）に乗り継ぐため光明駅まで移動した。韓国へは 3 度訪れたことがあるが、主にソウル周辺を巡っていたため、個人旅行ではなかなか行けない羅州市への訪問と交流を楽しみにしていた。光明駅から出発した新幹線の車内では、駅弁が配られ韓国に着いて初めての食事となった。空港に着いたときから日本とは違う香りを感じていたが、やっと韓国に着いたことを実感する味だった。車窓から見える景色を眺めながら 2 時間足らずで羅州駅に到着し、市職員の方々によって温かく迎えられた。

新たな都市

到着後早速、ピッカラム革新都市の見学として韓国電力公社（KEPCO）を訪問した。「ピッカラム」は、全羅南道に流れる河（カラム）「栄山江」と「光州」の光（ピッ）が一つになる共生の都市という意味を持ち、首都圏から公共施設を地方移設する大規模プロジェクトの新たな産業エリアとして開発が進んでいる。韓国電力公

社はソウルから羅州市へ本社を移転しており、新築高層ビルの最上階フロアからは羅州市一帯の様子を見渡すことができた。あたりはまだ発展途中という風景であったが、新しいビルやマンションがどんどん建設されており、これから日々開発が進むであろうことを感じた。その後、バスにて近代的な形のピッカラム展望台を経由し、その日宿泊するホテルへと移動した。このホテルも近年オープンしたばかりの新しい施設である。

夜はホテルを会場として、羅州市民の方々と交流夕食会が開催された。鳥取県中部地震の発生により倉吉市長の出席は叶わなかったが、羅州市長から挨拶を受け交流会が始まった。

郷土料理にびっくり

交流会では料理もいろいろと登場していたのだが、中でも全羅南道の郷土料理である「ホンオフェ」の登場によって私の記憶はそれ一色になっていた。「ホンオ」とは、ガンギエイというエイのことで、「フェ」は刺身を意味している。エイは日本ではあまり馴染みがないが、韓国では刺身などとして食べられている高級食材である。全羅南道以外の地域では、新鮮なものをそのままスライスして食べるが多いらしいが、こちらの地域では伝統的な調理法として、切り身を藁などと一緒に壺に入れ、数日間熟成させることでエイが持つ尿素からアンモニアを発生

させている。また、単独で食べてもよいが、ゆで豚のスライス、熟成キムチ、アミエビの塩辛などと重ねて食べる「サムパ（三合）」という食べ方がおいしいとすすめられた。刺身と肉の食べ合わせをめずらしく感じたが、豚肉の脂身や酸味の強いキムチがエイに合うとのことである。羅州市の方に食べ方を教わりながら口に運んでみると、まず発酵したエイの匂いに驚き、意を決して噛んでみると口の中にツーンとした味の衝撃が広がった。これまで食べたことのないあの味はとても忘れられない。

交流会終了後、街に出てみると大通りの交差点にある石塔に「倉吉市 市民交流団 羅州訪問」という大きな垂れ幕が掲げられており、市の歓迎ぶりに驚かされた。



羅州市民との交流会



ホンオフエ

日本人の面影

2日目午前中は、まず栄山浦歴史ギャラリー・旧黒住猪太郎住宅の見学を行った。栄山浦は、栄山江という川沿いに位置しており、河口にある港町木浦の開港以来、1900年頃から多くの日本人が移住している街である。今回の羅州市訪問には、倉吉市以外に県外からも参加者があり、

その方々の祖父にあたる世代が栄山浦に暮らしていたそうである。日本に引き上げてから結成された「栄山浦会」を3世として継承されたそうだが、近年会員が減少したことにより会の継続を終了し、引き継いできた会旗を羅州市へ寄贈するために来られたとのことである。栄山浦歴史ギャラリーにて、当時その地で暮らした日本人の写真をまじまじと見つめておられる姿越しに、その歴史がどのようなものだったのかと想いを馳せた。

羅州の特産品

次の日程は、農業交流コース（メロン圃場見学）、歴史文化体験コース（染め物体験）の2グループに分かれて選択交流が行われた。私は農業交流コースを選択しており、日本の寿司チェーンへメロンを輸出している大規模ビニールハウス栽培の現場を視察した。到着した農場には、普段鳥取で見かけるものより大きなビニールハウスが立ち並んでおり、生産者から直接メロンの生産について話を伺った。いくつかのハウス内を見せてもらうと同じ品種ではあるが、それぞれに生育状況の異なるメロンが植えられている。これは、ハウスごとに苗を植える時期を少しずつずらすことによって安定した出荷量を確保しているとのことである。帰りにいただいたちょうど食べごろのメロンは甘くおいしかった。その後、伏岩里古墳展示館等の見学、名物である羅州コムタン（牛の肉や内臓を長時間煮込んだスープ）を囲んだ昼食会を行い、羅州市職員の方々に見送られながら羅州駅からソウル行きの新幹線に乗り込んだ。



羅州コムタン



メロン圃場視察

歴史に残る現代の出来事

ソウル到着後は専用車でホテルへ移動したのだが、この日は朴槿恵大統領の退陣を求めるデモ集会と重なり、市庁近くに位置するホテルがデモの行われるメインストリートに面していることからあたりの道路は封鎖されていた。バスの外の渋滞と封鎖されている道路の物々しい雰囲気眺めていたが、ホテルに近づくことができない状況となり、バスから降りて皆で歩くこととなった。歩いてみると周りにはデモに参加する人であふれているが暴力的なイメージはなく、若い世代の人たちとたくさんすれ違った。また、ろうそくや「退陣」などと書かれたTシャツを売っている人、食べ物の屋台などがたくさん出ておりお祭りのようでした。ホテルに着き、自室のカーテンを開けてみると道路いっぱいにあふれる人の群れがろうそくを灯す光景が広がっていた。



デモの様子

歴史は現代を映す？

3日目は、韓国の伝統家屋が立ち並ぶエリア北村韓屋村の散策、ユネスコ世界文化遺産である宗廟^{そうびょう}、国立中央博物館の見学を行った。宗廟では、日本語ガイドによる案内で敷地内を巡り説明を受けた。メインとなる「正殿」「永寧殿」の建物の中には、韓国歴代の王や王妃の位牌が祀られている。朝鮮王朝は27代まで続いていたが歴代王として祀られているのは25名となっており、2名は即位していながら廃位となっている。王であっても行いが悪ければ後世にその称号を失うことになるという説明を聞きながら、昨夜間近に見たデモを思い出し、現代の大統領にもつながる歴史の流れを感じた。



宗廟見学

旅を終えて

韓国について勉強不足ではあったが羅州市への訪問やデモとの遭遇は貴重な体験となり、韓国の歴史と現在に触れ、韓国に対する興味と疑問を沢山持ち帰る旅となった。短い日程の中で多くの経験をすることができたのは、受け入れてくださった羅州市の方々や手配・同行をしてくださった方々のお陰と感じている。